

現在、私は訪問の仕事は殆どしておらず、放課後デイサービス等で、主に発達障害の子を個別に言語リハビリテーション（言語療育）を実施しております。

発達障害は、主に自閉症・注意欠如多動性・学習障害の 3 つに分類されます。このどれか 1 つだけの症状というよりは、混合型の方が一般的です。

具体的には、①言語面での問題と②日常生活での問題が、よく見かける臨床像です。①は、言葉が遅い、話せるが発音が間違っている（中には何を言っているのか聞き手に殆ど分からない場合もある）、知的には問題ないが読んだり書いたりするのが苦手等の問題で、②は、集中が途切れる、注意散漫で興味を持った方に突然行ってしまう（目的地に中々到着できない）、拘りが強い、初めての場所や人また予定外の事柄が苦手な時にはパニックを起こす事もある、忘れ物が多い、不器用、落ち着きがなくきちんと座ってられない（体幹がクネクネしたり、脚をバタバタさせる、手遊びする等。ひどい場合は離席してしまうこともある）、話はできるが場に合わない話をしてしまう（いわゆる KY）等の問題です。

そういったお子さん達の気になる点について課題を見極め、発達過程や特性も確認した上で、1 人 1 人に適したオーダーメイドのリハビリテーションを実施し、同時に保護者のご相談にも乗りながら、子どもに合わせて成長を促す療育を行っています。

（言語聴覚士 高梨 智穂子）

訪問介護の現場から・・・

③ 共に行う調理

高次脳機能障害（失語症）の 50 代の女性。長年高齢のお母親のお世話をされていた方でした。私はお母様の身体介助で訪問していましたので元気な時の彼女を知っていました。お母様が亡くなられ、一人での生活が始まるとすぐに脳梗塞で失語症になられたのです。歩行等は自立できていたため、会話が無くても行える日常生活は保てていましたが、自分で調理ができるようになりたいとの希望があり、「共に行う調理」の計画で訪問することになりました。スーパーで品物をかごに入れ、レジで支払いをすることは出来たので、冷蔵庫の中には野菜などはありましたが、料理するのに必要な食材として買って来たものではありませんでした。必要な食材を探し、探せないときは他人に尋ねて購入することは出来ませんでした。冷蔵庫の中の食材で作れるものを「た・ま・ね・ぎ」「二・ン・ジ・ン」と文字版を指差し、声に出しながら料理内容を考え調理しました。時にはご本人が考えていた料理と違っているときもありましたが、テレビを見ていた時の調理内容を伝えようとされたり、物を並べて作れるレシピを教えてほしいと言われるようにまでなられました。私も文字盤を指差し、口を大きく動かして、声に出せるようにと必死に行った記憶があります。一夜にして変わってしまう人生に「共に行う調理」を通して寄り添い、一緒に前に進もうとした事例です。（ヘルパー 辻豊子）

食支援における薬剤師のトリセツ

龍生堂薬局

薬剤師 豊田義貞

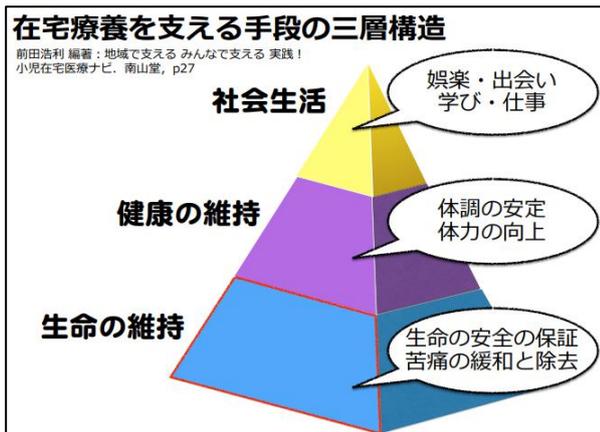


保険薬局の地域における役割は大きく二つあって、一つは地域医療の物流拠点、もう一つは開かれたコミュニケーションスペース（健康・生活に係る相談応需）です。私たち薬剤師はこれらの役割を認識し、皆さんの健康な生活を確保することを目的として日々業務にあたっています。かつては「町の科学者」と喻えられることもあった薬剤師。その専門性は主に化学に特化しており、他職種に比べ客観的な思考をもつことから、食支援におけるその立ち位置は「キープレフト※」であるものと、私は考えています。例えば、ゼリーを一口食べられたからといって、胃瘻も点滴も要らない、内服薬も使えと早々に考えてしまう人たちがいます。仮に食べられる状態に戻る可能性があるとして、それまで何か月

も 1 カップのゼリーと少しの水だけで人は生きていけるのでしょうか？力がつくのでしょうか？まず全身状態をきちんと整え、必要に応じて人工栄養も活用しましょうと、冷静に意見を言うのが薬剤師です。食支援と人工栄養は対立するものではありません。後者は道具・手段です。正しい目的があって適切に使用されたなら、人の健康に寄与できるものだと考えます（※一般的に「道路の左側に寄って走る」という交通用語と捉えられがちだが、本来は「安全かつ円滑な交通を確保すること」をドライバーに啓発することを目的とする）。

さて、薬と摂食嚥下の関係は重要であるものの複雑です。今回は 5 期型嚥下モデルに照らし簡単に解説しましたが、食欲・食事動作・咀嚼・嚥下など、種々の食行動に影響を与える薬剤が多数存在することが分かっており、今回は皆さんにとって意外なアノ薬が！というのもあったようです。特に薬剤性口腔乾燥症は食欲や味覚、咀嚼、嚥下など幅広く影響し、特に高齢者の場合は中止後の改善率も悪いという報告も多数あるため要注意です。生活機能の変化をつぶさに観察し、原因薬を検索する丁寧な仕事を心がけています。

人の幸福に直接的な関りをイメージにくい私たちですが、社会生活や健康の土台となる生命の維持を担っており、他職種の方々との繋がりから、結果的に人々を幸せに導いているものと信じ日々業務にあたっております。



まとめ

1. 意識レベルに影響を与える薬剤は主に先行期～準備期に影響を与える
2. 消化管機能の低下は先行期（意欲）にも影響する
3. 運動機能に影響を与える薬剤は先行期～準備期（咀嚼・送り込み）に影響を与える
4. 潤滑性に影響を与える薬剤は5つのどの時相にも影響を与える
5. 感覚器が冒されると準備期だけでなく先行期（食欲）にも悪影響をおよぼす
6. 筋力の低下に関連する薬剤はどの時相にも悪影響をおよぼす
7. 抗コリン作用薬は全ての時相に悪影響をおよぼす
8. 向精神薬・抗不安薬のなかでは特にベンゾジアゼピン系薬剤に注意が必要
9. 食道期の影響は口腔内にあらわれることが少なくない